



6月14日実施の漢字検定の様子 小学生も真剣に取り組みました 合否は7月4日にホームページで発表



今回は8級から高校生の2級まで25名が受験 上位級の合格率が低そうです 阿寒小の洗春君



富原小の阜誠君 鶴野小の彩夏さん 富原小の冬弥君の運動会 6/22～23 2日間で17時間近くテスト対策の



勉強する1000分特講 お昼だけは楽しいお弁当。特に女子は話しに花が咲く 中体連景中の石森君 高校野球地区予選の江



南高校の山角君と小原君 高専の田村君 高校1年生の石田君がギター演奏を披露 8時自転車で遠矢まで



高2の山本・田中・木村さん 14期生の水野君 6期生(32才)の怪しい会議 5期生のお母さんと 6/24 スーパームーン

【ステップゼミナール】
ステップゼミナールには、「スナップゼミナル」という塾生や卒業生で写真を撮ってみんなで見るということうま、下手に関係なく、カメラも一眼レフから携帯電話まで何でもよく、写真も日常のスナップから力まので色々です。
今、流行の「クラウド」(ネット上のサーバー)にデータを保存)を利用して、いつでも、どこでも見ることが出来ます。
今、参加しているのは塾生の高校生、高専生や札幌、東京、小田原などの専門学校生や大学生、そして卒業生のお父さんやお母さんです。
興味のある人は参加して下さい。

【もうすぐ夏期講座!】
期末テストが6月で終わり、中体連・高体連がひと段落、高校生は学校祭の準備として夏休みへと。なんとなく気が緩み、7月は勉強に集中できない生徒が増えます。来年の高校入試の日が3月5日に決まると、残りの日数が250日を切っています。
特に中3生は9、10、11月の学力ABCへ向けて、しっかりと基礎学力の確認をする必要があります。もちろん志望校が曖昧では成績は伸びません。
高校生は学校祭の準備など文化祭関連が続きます。この期間、どうしても勉強に身が入らず塾に来る回数も減ります。部活や学校の行事に振り回されることなく、自分の将来を見据え、しっかりと考え、行動しなければならぬのは今です。中学生も高校生も、夏休みがとても重要なことを忘れないで下さい。

【絶対評価の3は、相対評価では2】
先日、学力コンクール事務局の主催するセミナーに参加しました。塾で使用しているテキストの出版社の開発本部の副部長が、「現在の絶対評価でのオール3は2002年以前の相対評価ではオール2です」と東京都などの具体的なデータを示しながら言っていました。更に、学校間の定期テストのレベルにも大きな差があり、評価の3は学力的には大変な状況なのに父母の皆さんがそのことをわかっていないのも。確かに塾でも以前と比べると学力も基礎知識も考える力も相当落ちていっていると感じています。
先日行われた釧路市の小学生の学力テストでも、算数は良いのに国語では、ほぼ全員に問題ありの状態でした。そしてそういう生徒は皆、作文が苦手であり、応用問題になるとすぐに「分からない」とい

うふうになります。
塾でも学力は低くないのにローマ字のできない生徒がたつた3、4回の練習でローマ字が完璧に。要するに練習が足りないだけなのです。
また、中学生で47都道府県と県庁所在地を知らない、知床が世界遺産であることも知らないなど日常の知識として知っていなければならぬことを知らない子どもたちが多いと感じます。子供だけではなく若者たちもそうかもしれません。
社会人になってからでは遅いのですから、今覚えなければならぬことは、今覚えるように努力することが大切です。
社会では、知識と発想力と意欲のある人が求められます。
良い結果は勉強も部活も日頃の取り組み方ですね。

【ホームページが新しく!】
塾のホームページが新しくなりました。今まで同様にたくさんの写真が載っています。そして今回、新たに「塾日記」という項目ができました。塾での出来事など気づいたこと、感じたことなどできるだけ多く書くつもりです。また、「個別指導」のページの「なぜ勉強するのか」、「なぜ学力が低いのか」、「なぜ個別指導なのか」はぜひ読んでほしいと思います。
更に、「保護者の声」や「手記」では、ステップゼミナールが教育の「教」よりも更に「育」の部分に力を注いでいることの成果が、卒業後に発揮されること、目標を持つことがどれほど大事なのかを理解していただけたらと思います。
できれば生徒でも父母の方でも、それに対する感想などをメールで送ってくださると嬉しいです。

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月
			■中3夏期講座スタート							休塾						休塾(海の日)	休塾							休塾			●漢検合否発表			●鳥取中定期テスト
			■中1・2夏期講座スタート																											
			携帯電話の持ち込み禁止。連絡は塾の電話を使用して下さい。																											

『仏教に何ができるか～奈良・薬師寺 被災地を巡る僧侶たち』

～2013年5/11(土) NHK ETV 特集から

1300年間、学問寺として仏の教えを説いてきた奈良・薬師寺。東日本大震災から1年後、人々の苦しみを少しでも和らげたいと、僧侶たちが被災地に通い、般若心経(はんにゃんぎょう)の写経をすすめる活動をはじめた。何度も足を運ぶうち、人々の深い苦しみに触れ、僧侶たちは自分たちが信じてきた教えを伝えることにとまどいを覚えるようになる。答えのない問いかけに仏教はどう向き合うのか。

奈良・薬師寺の僧侶たちが東北の大震災後「自分たちは何ができるか」と、とにかく現地に足を運び、そこで突き当たった様々な葛藤や、被災したみなさんの思いを1年間追った番組でした。番組では大谷徹英さんという僧侶が取り上げられていました。

彼は「とにかく現地に行こう」と一番最初に石巻市に行ったとき、そこで起きたあまりに凄まじい光景に「自分はここに生まれていなくてよかった」とよぎってしまい、自分の中に潜んでいた「ずるさ」に出くわし、愕然とします。僧侶の資格もない、こんな自分が坊さんなどと言えるわけがないと苦しみます。

怯んでしまっている自分、なすすべもなく言葉もでない自分。「ずるさ」が分かった以上、仏教を人に説くなどできるはずがない。

17歳で仏門に入り、40代後半まで何も疑って来なかった自分に愕然とします。またもう一人、同じく40代の別の薬師寺僧侶は般若心経の中の「色即是空、空即是色」を取り上げ「この世にあるものは限りがあるが、この世から消えてもまた別の形で未来に必ず続いていく」と人々に説法をしてずっと来た方だが、目の前で最愛の夫と最愛の息子と大切な姑を一度に亡くした女性を目の当たりにして、その説法が何の意味もない、何の説得力もないことに気づきます。

同じ苦しみにいない自分たちが、想像を絶する悲しみや過酷な状況にいる人々に一体何が出来るのだろうか。一体何ができるというのか。

このような人々に、過酷な状況に置かれていない自分が何を言えるのだ?

それでも彼らは自分自身の葛藤を抱えながら、模索しながら東北の地へ何度も何度も足を運びます。

大谷徹英さんはそこで二人の「師」に出会います。一人は福島県原発からほど近い町の住職さんです。

2週間に一度、警戒区域だが立ち入りが許された時間、寺に必ず戻り敷地内を手入れします。「なぜ自分はこんな目にあってしまうんだ」という自問自答の中で、檀家の方々の心の拠り所だった寺を決して失くさない、という強い信念のもと、誰一人住んでいない町の寺を守っています。

大谷さんは、この住職さんから「覚悟」を学びます。そして別の仮説の寺で、その住職さんから檀家の代表として足を運ぶ一人の男性を紹介されます。

震災の時、消防団として飛び回り、6日後に帰宅したら家の中で愛する妻、長男夫婦、そして愛しい孫が遺体でいたそうです。そんな大きな悲しみを背負ったこの男性から「墓は山の方だったので無事でした。今ここに4人が眠っている」と聞いた瞬間、大谷さんは「すぐに行きましょう」とお墓に向かいます。

過酷な状況の中で今を生きている男性にできること、亡き人々にできることはお経しかないのですね。しかしその供養がどれだけ人の心を救うか……

般若心経の色即是空の意味を説いていた僧侶も、何度か訪れ顔見知りになった前出の女性に、思い切って「お宅(仮設)に伺ってもよいですか?」と尋ねます。そして女性にとってこの世で一番大切な家族のお位牌の前で、お経を唱えました。それぞれの僧侶たちは、心で常に自問自答しながら、苦悩しますが、何度も何度も被災地に行き、その都度般若心経の教えを伝え、写すことをすすめ、亡き人に伝えたい事を書いてもらうことを続けました。

地域の人たちの輪に入れば入るほど、そこで起きている問題を知ります。ある町では山の方の家は無事だったけれど(6割)海沿いの家は壊滅した(4割)仮設住宅に住み、先が見えない人々にとって、山側の家は恨めしいくらい羨ましい存在になり、いつの間にか町の中で人々が二分してしまう事態になってしまいました。その溝はお互い埋めようがなく、切ない思いが打ち明けられます。

また福島仮設住宅の人は「地震や津波だけならいいじゃないか。こっちはもう戻れないんだ。どう努力したって戻れないんだ」と仮設で妻を亡くした男性は絞り出すような声で語りました。僧侶たちはひたすらその心に寄り添いました。

般若心経をもとに、苦しい胸の内を共有し、そして写経をすすめます。未来に希望が持たず、悲観に暮れている方々が、この写経の時間だけは「心が無になる」「心が洗われる」「供養になる」と口々に言っていました。

そして被災した方とそうではない自分たち(僧侶)との距離が縮まったころ、大谷さんは妻と長男夫婦と孫を亡くした男性から「山の上の墓を建て替えたのです」と報告をされます。

愛する家族の写真をそれぞれ墓石に焼き付けた特注のものでした。せめて4人の霊にこれだけはしてやりたかったのだそうです。大谷さんはこの男性の心意気に深く感動し涙が溢れていました。その夜、大谷さんはこの男性の仮設住宅に1泊することになりました。ゆっくりじっくりお話を聞くためです。

67歳まで台所の家事をした事が無かったという男性が心を込めて料理を作ります。「とても不躰な質問になりますがお許し下さい。多くの被災者の方とお話をすると『一緒に死ねればよかった』『後を追いたい』というような言葉を聞きます。あなたは奥様、長男夫婦、お孫さんと一度に失い、やはりそのように思われましたか?」すると男性は「いいえ、それだけは一度もないのです。彼らの年忌をしつかりすることが自分の務めと思いました。

ジジは約束を守るぞって。だから墓も立てたし、今後も寺の再建に力を尽くすし、それから町の再建。それが残された自分の使命です」。大谷さんはここでもまた「覚悟」ということを学びました。

もう一人の僧侶も、夫と息子と姑を亡くした女性から「私はいつか薬師寺に行きます。会いに行きます」と嬉しい言葉をもらいます。

今年の3月11日。薬師寺は人々が祈りと願いを込めて書いた写経をお経と共に永代供養にしました。心のこもったお経でした。

大谷さんはここでご自身の中で気づかれたことを最後にお話ししました。「今まで『悟り』とはなんだろうか、どう言葉にすればよいかと思っていました。しかし東北の方々に出会え、師と仰ぐ方々の存在によって悟りとは『自分の置かれた場所で自分のできる使命を覚悟をもって行う事』とわかりました。」

『児童生徒と信頼 困難』60%…千葉県内の若手教員』

千葉県内の小中高校の若手教員の多くは、児童生徒との信頼関係を築くのが困難と感じていることが、県総合教育センターのアンケート調査で分かった。近年のベテラン教員の退職の増加に伴い、若手教員に経験を伝える教員が減ったことなどが背景とみられる。同センターでは今年度、子どもたちとの関係づくりや指導等のガイドブックを作成するなど支援に乗り出している。

アンケートは同センターが昨年6月、教職経験6年目の「5年経験者研修」を受けた教員429人を対象に行った。

学級づくりを進める上で「困難を感じていること」を聞いたところ、「児童生徒との信頼関係を築くこと」について「とても思う」「ある程度思う」をあわせると60.4%に上った。「児童生徒同士のよりよい人間関係を築く」も84.7%で、学級内で良い人間関係を築いたり、築かせたりすることが苦手な教員の姿が浮き彫りになった。保護者との連携や対応を円滑に行うことについて困難を感じている教員も78.3%と高かった。

若手教員に限らず、児童生徒や保護者との関係に悩むベテラン教員もいるという。また、子供との信頼関係を築くための手法として、子供が問題、課題への解決法を自ら考えるよう手助けする「コーチング」や、叱るときに気を付ける点などを挙げた。保護者との関係では、「途中で口をはさまず、常に穏やかな対応を心がける」などの対応方法も示した。

(2013年6月22日 YOMIURI ONLINE)

『子供達から見た大学の学部』

日本経済新聞(6月15日発行)の「こどもランキング」(小学5年生から中学3年生の男女200人)に、大学で入ってみたい学部のベスト10が載っていた。

順に、①理学部②工学部③栄養学部④法学部⑤文学部⑥経済学部⑥教育学部⑥医学部⑥薬学部⑩外国語学部となっている。

理由も尋ねているが、「宇宙に関する研究をやりたい」「数学の勉強をしたい」ので理学部に入りたい、という回答がある一方で「就職口が多くありそうだ」ということで「工学部」を選んだという回答もあったそう。さすが、現実を見ている子供達の考えは違う。

栄養学部が上位にあるというのはちょっと意外な気がするが、「管理栄養士になりたい」という明確な回答もあった。

いずれにせよ、子供のころから勉強することの明確な目的がはっきりしていると思わずにはいられない。

そして、同じ質問を釧路の子供達にしたとき、果たしてどういう答えが出てくるのだろうか。多くの子供達が「学部」というものさえ知らないのではないだろうか。学部ではなく、職業名しか出てこないだろう。そういう点からも、都会の子供達との格差を感じる。